

北海道で中学生が部活動

北海道東川町の永楽寺(永江竜心住職)は8月のお盆前後の2回に分けて、福島県の子どもたちを受け入れた。

長年、チェルノブイリ事故で放射能被害に苦しむ子どもたちの受

け入れに協力する永江住職は「東日本震災の発生直後にベラルーシから『私たちより日本の子どもたちを守ってほしい』と連絡を受けていた。すぐに協力させていただいた」と話す。

8月3日から1週間は、福島県郡山市の高瀬中学校女子バレー部員ら19人が同寺にホームステイ。震災後、体育館が使えなかった生徒は、近くの東川中学校の女子バレー部と毎日合同練習を行った。両部員たちの親交は深まり、旭山動物園や富良野へ観光するなど、

つかの間の夏休みを満喫していた。同寺門徒からは新鮮な野菜などの園児や小学生、保護者が差し入れられた。最終日前夜には、引率の中学校教員から仏教やベラルーシの話を教えてほしいという要望を受け、永江住職が1時間ほど話した。

19日から6日間は、二本松市の同朋幼稚園の園児や小学生、保護者ら36人を受け入れた。同寺には、子どもたちがはしゃぐ、元気な声が響き渡っていた。永江住職は「今後にも継続的に支援活動を続けたい」と語る。